

コアカリ獣医微生物学 正誤表

	誤	正
9頁36行目	バシラス	バチルス
13頁 図3-1の右上	衰退期	死滅期
16頁11行目	多くの細菌には、五単糖を提供するペントースリン酸回路があり、	多くの細菌には、五炭糖を提供するペントースリン酸回路があり、
17頁 図3-4の説明2行目	が、細胞質で前駆体をして形成される。	が、細胞質で前駆体として形成される。
18頁13-14行目	る。菌体外への分泌される蛋白質の多くは	る。タイプII分泌系により菌体外への分泌される蛋白質の多くは
41頁 図6-1	「蛋白質合成阻害薬」に	「アミノグリコシド系薬」を追加
45頁 表7-1 「炭水化物の分解：」および「ブドウ糖」の項目	炭水化物の分解： ブドウ糖 + d - + d d d d 乳糖 d - - - d d - d	ブドウ糖からのガス発生 + d - + d d d d 炭水化物の分解： 乳糖 d - - - d d - d
50頁17行目、26行目、31行目	<i>Y. paratuberculosis</i>	<i>Y. pseudotuberculosis</i>
53頁37行目	<i>V. harveyi</i> として同定されているもの一	<i>V. harveyi</i> として同定されているもの一
54頁24-25行目	アエロモナスサルモネシダ	アエロモナスサルモニシダ
54頁25行目	<i>A. salmonicida</i>	<i>A. salmonicida</i>
55頁22行目	subsp. <i>funduriforme</i>	subsp. <i>funduliforme</i>
56頁 「7-3 パスツレラ科」のキーワードの2行目	衛生現象	衛星現象
64頁28-34行目・表7-17 「スピロヘータ類」の記載	ブラキスピラ属がスピロヘータ科に属していると記載されていますが、現在、ブラキスピラ属はブラキスピラ科に分類されています。そこで本文を以下のように訂正いたします。また表中のブラキスピラ属もスピロヘータ科からははずれることになります。 獣医学領域で重要なものはスピロヘータ科ではブラキスピラ属、ボレリア属、トレボネーマ属に含まれ、レプトスピラ科ではレプトスピラ属に含まれる（表7-17）。 表7-17 スピロヘータ科とレプトスピラ科の性状比較	ブラキスピラ属はブラキスピラ科に分類されています。そこで本文を以下のように訂正いたします。また表中のブラキスピラ属もスピロヘータ科からははずれることになります。 獣医学領域で重要なものはブラキスピラ属、ボレリア属、トレボネーマ属およびレプトスピラ属に含まれる（表7-17）。 表7-17 スピロヘータ目内の主要な属の性状比較
67頁 図7-4	中央が <i>Streptococcus aureus</i> ,	中央が <i>Staphylococcus aureus</i> ,
68頁下から10行目・17行目	<i>S. pneumonia</i>	<i>S. pneumoniae</i>
77頁22行目	腸管膜リンパ節	腸間膜リンパ節
78頁7-8行目	<i>A. mastitidis</i> (豚の乳房炎)	<i>A. suis</i> (豚の乳房炎)
78頁 表7-21	<i>A. mastitidis</i> 乳房炎 (牛)	<i>A. suis</i> 乳房炎 (豚)
82頁 表7-22の「山羊, めん羊」の項の「発生状況」の2行目	日本での発生はなし	日本では沖縄県で発生
82頁下から3行目	いずれの病気も日本での発生報告はない。	伝染性無乳症は1991年に沖縄県で発生が確認された。その後も散発的に沖縄県での発生が報告されている。
82頁下から1行目	<i>M. hyorhinis</i>	<i>M. hyorhinis</i>
84頁5行目	<i>R. typhi</i> の感染はダニとシラミが媒介する	<i>R. typhi</i> の感染はノミとシラミが媒介する
87頁 表7-24	<i>C. pneumonia</i>	<i>C. pneumoniae</i>
104頁29行目	von Magnus 現象	von Magnus 現象
112頁下から15行目・18行目 115頁4行目・5行目	イノラミニダーゼ	ノイラミニダーゼ
129頁下から13行目	猫へウペスウイルス	猫ヘルペスウイルス
223頁 第2章, 問1のc.	c. 細胞壁と細胞膜の間の間隙のこと。	c. グラム陰性菌の外膜と内膜の間の間隙のこと。
226頁 問8のb.	b. <i>Bordetella bronchiseptica</i> が産生する外毒素Aは	b. 外毒素Aは
226頁 問8のc.	c. 皮膚壊死毒素が鼻甲介の萎縮を起こし、	c. <i>Bordetella bronchiseptica</i> が産生する皮膚壊死毒素が鼻甲介の萎縮を起こし、